

目指す学校像

明日の登校を
楽しみに
できる学校



自主・自律

敬愛

協働

鶴 中 だ よ り

町田市立鶴川中学校 TEL 042-735-2405 FAX 042-735-2401

鶴川中学校だより

第18号

2026年2月16日発行

町田市立鶴川中学校



1 2月9日（月）全校朝礼校長講話

① 「大雪を振り返って」

皆さん、おはようございます。今朝も冷え込みますが、土日には非常にたくさんの雪が降り、校内にもまだ雪が残っていますね。昨日、皆さんはどう過ごしていましたか？窓の外が真っ白になり、交通が遅れ、日常が非日常に変わる。私は昨日の朝、都心に出かける用事があったのですが、電車が止まってしまい、大回りをして、雪道を転びそうになりながら、懸命に走るという経験をしました。都会ではこのようにほんの少しの積雪が大きな影響を与えますが、雪というのは不思議な力をもっています。普段見慣れているアスファルトの汚れや、散らかった景色をすべて真っ白に覆い隠し、世界をリセットしてくれます。たった数センチの積雪で右往左往する私たちにとって、雪は自然の圧倒的な力を目の当たりにさせてくれる存在です。「自分の思いどおりにはいかないことがある」とあらためて教えられた気さえします。

② 「1年スキー移動教室の成功」

その雪の恩恵をたっぷり受けて行われたのが、先日のスキー教室でした。まずは1年生の皆さん、お疲れ様でした！大きな怪我もなく、元気に帰ってこられたこと、そして足など体の痛みを理由とした脱落者が一人もいなかったこと、これらが何よりの「成功」です。スキー教室での皆さんの様子を見ていて、印象的だったことがあります。初日はスキー靴や板を履くのにも苦勞し、ペンギンのようにヨチヨチ歩きだった人が、最終日には斜面を颯爽と滑り降りていた。転んでも転んでも、雪まみれになりながら笑って立ち上がっていた。あの時、皆さんが無意識にやっていたこと。それは「失敗を恐れずに、重力を楽しむ」ということでした。教室の机に座っているだけでは学べない、「転び方」と「立ち上がり方」を、皆さんはあの雪の上で体得したはずです。

③ 「与えられるものは有限、求めるものは無限」

さて、イタリアのミラノ・コルティナでの冬季オリンピックも始まり、早速スノボやフィギュアスケートでの日本人選手の活躍が報じられています。そこで今日は、ある冬季オリンピック金メダリストの言葉を紹介します。スピードスケートの小平奈緒さんの言葉です。彼女は、金メダルを期待されながらも届かなかった時期や、怪我に苦しんだ時期を乗り越え、こう言いました。

「与えられるものは有限、求めるものは無限」

この言葉には深い意味があります。例えば、先生から教わること、親に用意してもらう環境、これらは「与えられるもの」であり、いつかは終わりがきます。つまり有限です。しかし、「もっと上手になりたい」「なぜ失敗したんだろう」「次はこうしてみよう」と自分から湧き出てくる探究心、つまり「求めるもの」には限界がありません。スキー教室で、転んでも「もう一回！」

と思ったあの瞬間、皆さんの心はまさに「無限の探究心」に火がついていたのではないでしょう
か。メダリストと私たちの違いは、才能の差だけではありません。その「求めるもの」を、日
常の小さな場面でも持ち続けられるかどうかの差なのです。

④ 「日常というゲレンデへ」

土日の大雪は、私たちに「厳しい自然」を見せましたが、同時にスキー教室という「最高の感
動体験」もプレゼントしてくれました。皆さんの前にはまだ、真っ白な新雪が積まったばかりの
ゲレンデのような「未来」が広がっています。勉強でつまづくこともあるでしょう。人間関係
で派手に転ぶこともあるかもしれません。でも、思い出してください。雪の上で転んだ時、皆
さんはどうしましたか？ 痛くても、笑いながら雪を払って、また前を向いたはずです。

「与えられるもの」を待つのではなく、自分から「どう生きたいか」を求める人になってくだ
さい。今日という一日が、皆さんにとって新しい一步を踏み出す素晴らしい「滑走」になるこ
とを願っています。終わります。

2 2月16日（月）生徒朝礼「校則改訂投票結果ほか」

2月16日（月）、生徒会朝礼では先日行われた鶴川中学校校則の改訂に関わる生徒投票の結果
と今後の対応について、保健委員会によるハンカチチェックキャンペーンの報告と優秀クラス
の表彰の二つが行われました。

① 校則改訂の投票結果について

生徒会では「標準服下に着用するセーター・ベスト等のデザインに関するルール変更」「整
髪料の使用に関するルールについて」の二つが提案され、それぞれ3分の2以上の賛成投票を
得て、具体的なルール変更についての検討が進められています。身だしなみに関する受け止めら
れ方は、時代とともに変化します。時代による価値観の変化によって、校則が検討されるという
のも、社会人の訓練として非常に重要だと思います。そして、話し合いについては、周りの人への
配慮を重視して検討が進められているとのこと。これも非常に素晴らしいことだと思います。な
ぜルールを変更するのか、その理由や変更に関する議論の経緯が「合理的」であること。合意形
成が民主的に行われること、これらの経験は、きっと生涯に渡って役に立つはずです。鶴中生徒
の皆さんが、理性的、合理的に判断してくれていることに、頼もしさを感じます。

なお、整髪料については試行期間が設けられます。いずれも3月に最終決定されます。

② ハンカチチェックについて

感染症予防としての手洗い促進、そして手を洗った後のトイレトペーパーでの手拭きを防
止して、トイレの環境維持を図ること、これらを目的としたハンカチチェックを保健委員中心に
行い、所持率優秀だったクラスが表彰されました。特筆すべきは、2、3年生のハンカチ所持率
トップのクラスが両学年とも9割を超えていたこと。トップでも7割だった1年生に対して、
模範を見せてくれました。身だしなみに関する校則変更もそうですが、高学年ほどハンカチやテ
ィッシュなどを持ち歩き、公共の場所の美化と衛生を意識する、マナー意識が高い鶴中生。
とても立派です！！